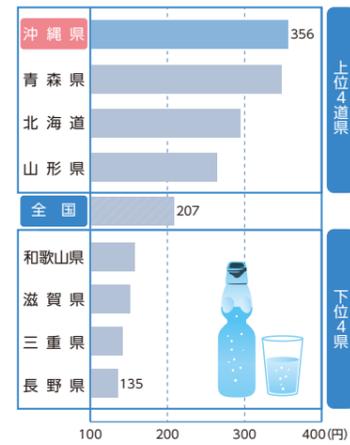


● 炭酸飲料への支出額 **356円**

(2009年/1カ月あたり)

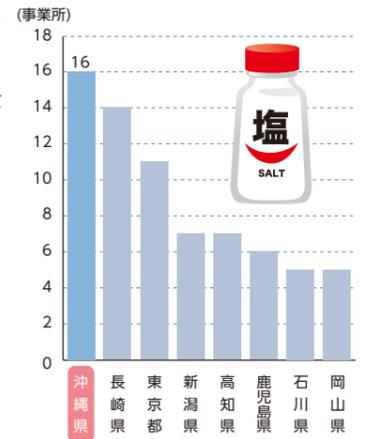


皆さんは、どれくらい炭酸飲料を飲んでいるだろうか。  
総務省統計局による2009年度全国消費実態調査によると、世帯ごとの炭酸飲料に対する1カ月あたりの支出額は、沖縄県が全国トップだった。暑い地域なので当たり前のようにも思えるが、2位は青森県で3位は北海道。炭酸飲料の消費量は、地域に炭酸飲料がもたらされ、定着してきた経緯など、気候以外の要因で決まっているようだ。  
炭酸飲料が広く根付いている東北や北海道には、ご当地ラムネやご当地サイダーが多く、地域おこしにも一役買っている。メディアでも話題になった夕張メロンラムネや塩サイダーをはじめ、多くの商品がインターネットでも購入できるようになっており、ファンも多い。沖縄にも南国らしいラムネや、ちょっと体に良さそうなサイダーが増えれば楽しそうだ。  
(海邦総研・鮫島智行)

● 塩製造業の事業所数 **16事業所**

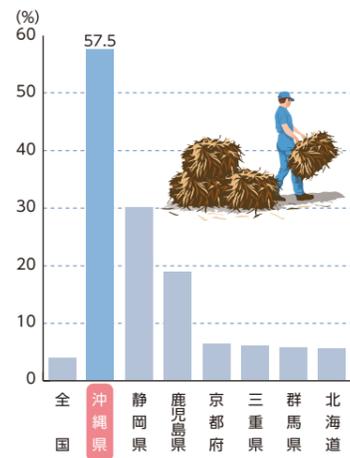
(2012年)

沖縄で塩といえばマース。これがなければ料理が成り立たないほどの重要な調味料だ。2005年の塩の完全自由化以来、塩ブームともいえるような勢いで、数多くの塩が販売されるようになった。沖縄産の塩も全国的に有名で、沖縄産の塩を使用した商品も数多く発売されている。  
総務省統計局「2012年経済センサス」で沖縄県の塩製造業をみると16事業所と、全国1位の事業所数だ。  
現在、国内では、約2,000種類を超える塩が手に入るようになったといわれており、沖縄産だけでもいくつもの種類がある。  
最近では、ステーキに合う塩、サラダに合う塩、天ぷらに合う塩、おにぎりに合う塩、料理に合わせて塩を揃えるこだわり派もいるようだ。  
今日のチョイスは、チャンプルーに合う塩で決まりだろうか。  
(海邦総研経営企画部・新里治史)



● 工芸作物の作付面積の割合 **57.5%**

(2010年)

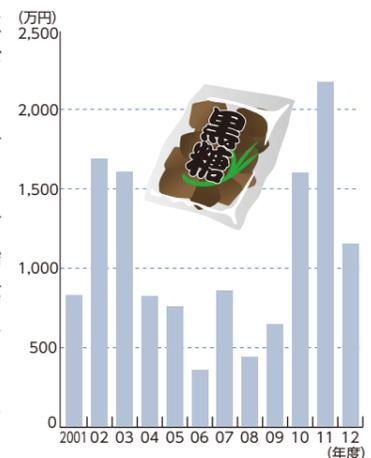


農作物は普通作物や飼料作物などに分類される。そのうち、収穫後に加工して利用される農作物は工芸作物とよばれ、代表的なものにお茶やタバコなどがある。  
農林水産省「作物統計」によると、2010年の沖縄における作付面積は約3万5,100ヘクタール。このうち、約2万200ヘクタールで工芸作物が栽培されており、その割合は57.5%と、他都道府県を圧倒している。  
沖縄の工芸作物で最も多いのは、ご存知サトウキビだ。最近では、サトウキビを原料に高品質のラム酒が作られるようになった。また、砂糖を作る際の副産物からエタノールを精製し、自動車燃料とするなど、環境的にも活用の幅が広がってきている。海外産の原料糖との競争が懸念されるが、黒糖のブランド化などでサトウキビの島というイメージを守り続けてほしいものだ。  
(海邦総研・瀬川孫秀)

● 黒糖の輸出額 **1,149万円**

(2012年度)

アジアで沖縄産黒糖の人気が高まりつつある。台湾や香港では、女性が寒い時期に体を温めるため、生姜と共にお湯に溶かして飲む飲み方が一般化している。台湾にも黒糖に近い食べ物があるが、程よい甘さやミネラル分を多く含んでいる点などが評価されており、沖縄産黒糖は、一定の地位を確立しているようだ。  
財務省貿易統計によると、沖縄からの黒糖輸出額は2004年以降、一時停滞していたが、2010年から急速に回復してきた。2009年秋に始まったANA国際貨物ハブ事業を契機に、海外市場への進出意欲が高まったとみられる。2012年度はやや減少したが、これは台風によりサトウキビの収穫量が減少した影響のようだ。黒糖の認知が広まってきたチャンスを逃さないよう、生産者と行政も含めた安定生産・供給体制の整備が必要といえそうだ。  
(海邦総研・中山禎)



● 外国クルーズ船の寄港回数 **47回**

(那覇港・2012年)

順位	港湾名	寄港回数
1	博多	85
2	長崎	72
3	那覇	47
4	石垣	46
5	鹿児島	27
6	横浜	26
7	別府	25
8	神戸	22
8	大阪	22
10	広島	14
合計		476

「今日は街中に外国人が多いと思ったら港にビルのようなクルーズ船が寄港していた」という話を聞くのも県内では珍しくない。  
国土交通省「2012年の我が国のクルーズ等の動向について」によると、2012年に外国船社が運航したクルーズ船の那覇港への寄港回数は47回で全国3位。石垣港への寄港回数は46回で那覇とほぼ同じ頻度だ。両港の寄港回数を合算すると93回で、国内で外国クルーズ船寄港数が最も多い博多港の85回を上回る。過去5カ年の寄港回数を見ても、那覇・石垣両港は全国の上位4港に毎年ランクインしており、沖縄は外国人クルーズ客にとって国内トップクラスの寄港先であるといえそうだ。  
外国人クルーズ客が数多く訪れる沖縄。満足度でも上位にランクインできるような環境を県民全員で作っていきたいものだ。  
(海邦総研・堀家盛司)

「おきなわデータ算歩 庶民のけーざい100」伊波 貢 沖縄タイムス社

「データ算歩」は県内でよく話題になる事柄を具体的に数字で裏付けて紹介しようと試みたもので、経済・数字の世界をまさに算(散)歩感覚で楽しみましょうという内容です。  
「食生活」「生活・消費」「産業」「住環境」など八項目に分類。漫画やグラフを使い、見開き2ページで1項目を説明しています。アイスクリームやビールの購入額が全国一低いなど意外と思える数字も紹介。読みたい項目から読めるよう工夫しています。

沖縄県内各書店やインターネットでもご購入いただけます。沖縄けーざいを易しく知りたい、興味のある、という方に特にお勧め！

<http://www.kaiho-ri.jp>

